

スポーツアイランドで

離島球児たちが躍動

宮古島市で離島甲子園初開催



優勝の喜びを分かち合う宮古島アララガマボーイズの選手たち。



04

01 徳之島の嘉納 新投手。5回1失点と好投。**02** 4回表、好機を逃さず、犠牲バントで走者を次塁へ。**03** 決勝点となった渡真利空真選手の三塁打。**04** 死球で出塁し、ホームに帰還した川満元太選手を迎える仲間たち。**05** 熱戦を終えて、選手たちは互いの健闘を称え合った。**06** 栄冠を手にした宮古島アララガマボーイズの面々。**07** 優勝を喜ぶ地元宮古島の皆さん。**08** 6回無失点の好投でチームに勝利をもたらした宮古島・池間光喜投手。今大会の最優秀選手に選ばれた。

決勝戦 チーム名	1	2	3	4	5	6	7	計
宮古島アララガマボーイズ	0	0	0	1	0	0	0	1
徳之島選抜	0	0	0	0	0	0	0	0



05



01



06



02



07



08

令和七年八月一八日、第一六回全国
離島交流中学生野球大会（通称：離島甲
子園）が開幕した。舞台は大会初とな
る沖縄県宮古島市。周囲を「宮古ブル
ー」と称される美しい海に囲まれる《ス
ポーツアイランド》に、東京都大島か
ら沖縄県西表島まで過去最多の二七自
治体・二四チームの離島球児たちが集
い、激闘が繰り広げられた。

本大会を制したのはホームチームの
宮古島アラガマボーイズ。二一日の
徳之島選抜との決勝戦は、両投手の好
投が光る緊迫した展開。両者三回まで
得点を許さず、試合が動いたのは四回
表。死球で出塁したランナーをバント
で送り、渡真利空真選手^{とまりらな}の三塁打で宮
古島が一点を先取した。この先制点を
先発の池間光喜投手^{いけまみつぎ}、救援の川満秀星^{かわみつしせい}
投手が守り切り、宮古島が六大会ぶり
三度目の栄冠を手にした。試合終了の
瞬間、球場は、選手たちと応援に駆け
付けた地元観衆の歓喜の渦に包まれた。



宮古島アララガマボーイズ



09 甌島選抜対大崎上島中学校。ホームを目掛け疾走する甌島！ **10** 隠岐の島あんやら一ず東 憲吾選手が見事出塁。**11** 三塁打を放つ佐渡市選抜の松田凜音選手。**12** 大会初出場の沖永良部と論合同チーム。ホームに生還する鳥丸魁人選手。同チームは交流戦を含め2勝を収めた。**13** 南種子中学校・河野速斗選手の力投。**14** 石垣島ばいーぐるズの小濱啓太選手の快走は得点につながった。**15** 準々決勝初回、先制されるも負けじと点を取り返す徳之島選抜。得点を喜ぶ選手たち。**16** 準決勝での吉岐市選抜の正路大賀選手の三塁打。**17** タイブレークの激闘後、お互いを称え合う竹富町選抜とKAMUJIMA。**18** 随時更新される試合結果に興味津々の選手たち。



16



13



17



14



18



15



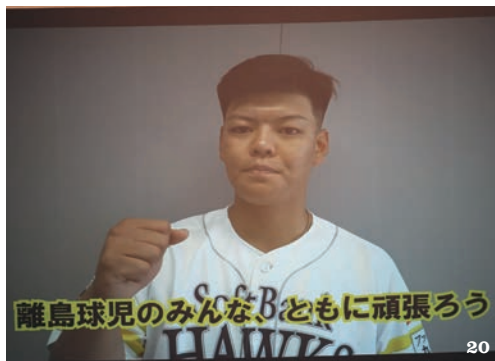
22



19



23



20



24



21



25

19 歓迎挨拶を述べる宮古島選抜の知念十希周主将。20 宮古島出身、福岡ソフトバンクホークスの盛島稜大選手からの応援メッセージ。21 開会式では各チーム主将が、自分の島を紹介。22 19日の伊良部球場第1試合では、嘉数 登宮古島市長が始球式を務めた。23 「まさかりドリームス」の川口和久さんによる投球フォーム指導。24 2分間のキャッチボール回数を競う「キャッチボールクラシック」。25 大会提唱者・村田兆治氏、大会講師・袴田英利氏の想いは未来へと受け継がれていく。26 徳之島選抜のキャッチボールクラシック優勝を他チームも一緒に喜び合う。27 本大会に参加した女子選手の皆さん。28 宮城克典宮古島市教育長の黑板アートが大会に彩りを添えた。29 384名の離島球児が出場。



27



28



26

「野球を通じ、離島の子ども達に夢・希望・勇気・挑戦する心を伝える、大会提唱者・村田兆治氏の想いをつなぐ素晴らしい大会だった」と宮城克典大会副実行委員長の言葉をもって、本大会は盛会裏に閉幕した。その後、恒例の「まさかりドリームス」による野球教室、「キャッチボールクラシック」、「さよならパーティ」が開かれた。

三四名もの離島球児が一堂に会した一六回大会。試合を通し、同じチーム内の団結が強まったのはもちろん、他の島の対戦相手と全力でぶつかり合うことで、選手たちは互いを認め合い、深い友情で結ばれた。ここで育まれた絆が、島々の未来を切り拓いていくことだろう。

次回の大会は、島根県隠岐の島町での開催を予定。過去三回の優勝を誇る強豪・隠岐がホームで栄誉を勝ち取るのか、熱き球児たちのドラマが早くも待ち遠しい。

(写真と文・石川)



29